



福井市 川西中学校
に伺いました

「変化は楽しい」という気持ちで 学校づくりを。

全意見をしっかり検討「全職員アンケート」

STEP 1 すべての教職員から個別に意見集約



まずは、校長先生がメールで意見を募集。他の職員が目には見えないので、率直な意見を書くことができます。それでも心理的安全性が保たれていない組織の場合は、「こんなことを書いてはいけないに違いない」「衝突するくらいなら意見しないでおこう…」ということになりかねません。思い切って全員から意見を募集するには、校長先生からの信頼と、普段の全体的な関係性の構築が重要ですね。

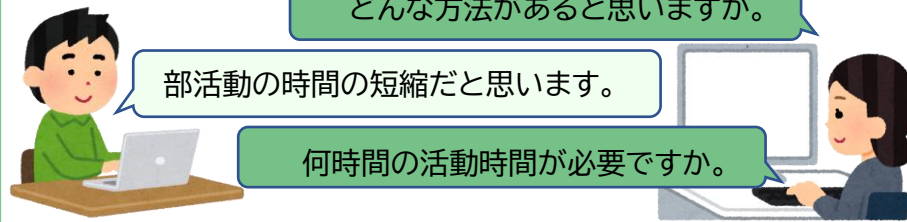
STEP 2 1件1件への返信と、個別のやりとり

生徒の下校時刻を繰り上げられないでしょうか。

どんな方法があると思いますか。

部活動の時間の短縮だと思います。

何時間の活動時間が必要ですか。



知っていますか？ こんなワード

現状維持バイアス

今回、川西中学校の校長先生にお話を伺って、「変化を楽しむ」ということの大切さを実感しています。…とは言え、変化に対しては不安を感じたり、不快感を覚えたり、なかなか対応できない、変化を望まないということはあると思います。それを「現状維持バイアス」がかかっている状態と言います。「変化を受け入れずに現状のままだいたい」という気持ちが働き、物事をそれをもとに判断してしまう状態です。まずは「現状維持バイアス」の存在に気づき、意識して外してみることで、受け入れられる変化は増えていきます。変化が苦手という方は、「当たり前とっていたことを、ちょっと立ち止まって疑ってみる」ということを少しずつ始めてみませんか？

キーワード:生徒も教職員も 自分の時間を自分でコントロールできるひとに。

教職員の勤務時間 8:05~16:35
生徒の安全確保のため滞在時間を合わせる 朝の会開始=勤務開始

曜 日	火・木	水	月・金
登 校	7:45	~	8:00
課 題 提 出	8:00	~	8:05
朝 の 会	8:05	~	8:15
1 限	8:20	~	9:10
2 限	9:20	~	10:10
3 限	10:20	~	11:10
4 限	11:20	~	12:10
給 食	12:15	~	12:50
昼 休 み	12:50~13:00	12:50~13:10	12:50~13:10
清 掃	13:00~13:10	なし(ロング昼休み)	
5 限	13:15~14:05	13:15~14:05	13:15~14:05
6 限	14:15~15:05	なし	14:15~15:05
帰 り の 会	15:10~15:20	14:10~14:20	15:10~15:20
下 校	15:25	14:25	15:25
諸 活 動	①15:25~16:25	14:45~15:45 諸会議	①15:25~16:25
	②15:25~16:45		②15:25~16:45
完 全 下 校	①16:35	(水)福井市 ノー残業デー	①16:35
	②16:55		②16:55

・週ごとに会議の種類を予め設定⇒準備をしやすく時間を有効活用できる
・原則ペーパーレスで実施

●多様性・ジェンダーの観点から●「隠れたカリキュラム」撤廃
【生徒】制服や頭髪等の校則:生徒会で性別による区別を見直し
【教職員】混合名簿・集会の整列順番・呼名順番
日ごろの小さな声かけから意識改革
(例)重たい荷物を運ぶ時に男性のみに声をかける×
⇒性別で役割の区別をしない
⇒「特別な配慮」と捉えず、日ごろから当たり前

月・水・金:清掃なし「ロング昼休み」

- ①雑談や面談、学習の質問
- ②委員会ミーティング
- ③じっくり図書室
- ④がつつり体育館(学年ごと曜日設定)
- ⑤ALTと会話(クラスごと順番)

一人ひとりが主体的に「やりたいこと」「やるべきこと」を考えて有効活用できる20分間



週2回の清掃でもきれいな教室環境を保つには…
生徒一人ひとりの日ごろからの心がけが大切

部活動の見直し

★R5年度~「全員部活動加入制」の廃止

小規模校は部活動の選択肢が少なく、可能性を狭めてしまう。加入が任意なら小学校からの習い事を継続できたり、地域スポーツクラブで中体連の大会に出ることも可能

★部活動の時間は原則60分間(①)勤務時間内で完全下校
※生徒と顧問が希望する部活動は、
昨年度と同じ1時間20分間(②)で実施
日の入りの時刻や、万が一のケガへの対応等、
生徒の安心・安全を最優先

生徒の下校が早まることで、自由な時間が増えることへの不安の声や、保護者のお迎えに影響は出ませんでしたか？

自分の時間の使い方を考える生徒になってほしいと思っています。
児童館は18歳まで利用できる施設なので、下校時刻のことを伝え、お迎えまでの利用について連携を取りました。

教職員は本来やるべきこと
=スクールプランの「重点目標」に注力

編集後記

今回、川西中での取材で「私たちの普段の仕事が、生徒たちにとって『教員』という仕事の職場体験」という校長先生の言葉が印象に残っています。教職員課は、「教職の魅力化」にも取り組んでいますが、これはGGKと別々ではなく、車の両輪のように相互に作用していくものと思っています。「教職員がイキイキやりがいをもって働ける」「学校で働くということに魅力を感じる」「新たな教職の担い手が生まれていく」こうした好循環を私たちが作っていけると良いと感じております。

次号 VOL.6も
お楽しみに!

